

# 相談受付とプロフィール

デイサービスセンター・アートによる評価

\* (H29年3月の時点でのプロフィール 9歳1ヶ月時)

氏名	丸井新之助	性別:男	生年月日:平成20年2月14日	利用状況	<p>本事業所を週3日(月・火・金)利用。送迎は事業所の車を利用。</p> <p>一年生時から利用している。日課としては、個別課題に沿った内容での感覚系の机上での遊びを中心とした室内でのコーナー遊び⇒部屋の雰囲気を変えリラクゼーションのための活動(ゆったりした動き・光・風を楽しむ)・マッサージ等⇒絵本・紙芝居・スタッフの劇⇒片づけ⇒帰りの会</p>
診断名	ダウン症候群				
医療情報	<p>生後間もなく心室中隔欠損症と言われたが、経過を見ながら今日に至る。特に運動制限なし。眼鏡所持。白内障。</p> <p>身長:122.7cm 体重:26.3kg</p>				
生育暦	<p>妊娠時:普通分娩。在胎39週 体重3240g 身長48cm 頭囲32cm、定額0:6 寝返り0:7 座位1:1 四つ這い1:6 始歩1:8</p>			他機関の利用や、連携について	<p>児童発達支援センターMM園は、1歳半から利用。親子教室への参加を経て、2歳児の時に入園。年中からは保育所との並行利用。母親は時折、MM園の先生には電話をかけ、話をしているとのこと。</p> <p>学校は特別支援学級(知的)に入学時より在籍。一時期、よく他の児童に手が出るので、交流の時間は母親がついてくださいと言われたことがあるが、仕事を辞めるつもりはないと伝え、その後その話は出ていない。</p> <p>出産した総合病院には年に一回行き、診察を受けている。療育的な機関に行くことに母親は関心はあるが、時間がないこともあり、就学後に利用している事業所以外では利用歴はない。</p>
家族構成	父、母、兄、姉の5人家族。				
家族状況	<p><b>母親について:</b>医療事務職員。職場の理解により、ある程度時間には融通は利かしてくれるが、通常は9時から17時過ぎまでの勤務。自分で納得できるまで質問し、見通しを立ててから行動に移すようなところがあり、手抜きをすることがなかなかできない印象。家庭内はきれいに整頓されており、連絡帳には丁寧な字で連絡事項にもきちんと答えてくる。本児の奔放さとは180度違った性格。電話での話も、用件以外の話になることはない。腰が低く、周りにもよく気を遣っている。親の会などを通じ、福祉の情報についてよく知っている。</p> <p><b>父親について:</b>仕事は朝早く夜は遅く、休日出勤もある。普段は姿を見ることはない。長男に対してはいつも厳しい態度で接し、長女に対しては甘やかし過ぎという母親の評価。本児と休みの日にスーパー銭湯に二人で行くことが唯一の趣味と言っているとのこと。昨年度あたりから出張も増え、お疲れモードの様子。</p> <p><b>兄について:</b>中学一年生。成績優秀で、まじめでおとなしいタイプ。話しかけるとよく答えてくれる。部活は吹奏楽部に所属でパーカッション担当。</p> <p><b>姉について:</b>小学校六年生。明るく活発で、誰とでも友達になるところがある。母曰く、お転婆で、忘れ物が多く、いつも注意をしていないといけないとのこと。また、静かにしていることが少なく落ち着きがないとのこと。ディズニーランドで早く働きたいと言っているらしい。好奇心旺盛で、おしゃべり大好き。</p>			家庭環境	<p>賃貸マンション、3LDK。和室の部屋で、母と長女と本人は寝ている。一部屋は長男と長女の勉強部屋。もう一部屋は父親が寝る部屋で、物置化しているとのこと。</p> <p>新くんはマンションでも有名。ちょっと目を離すとインターフォンに手が届きだしたので、すぐボタンを押し、その家の方と話をしている。住宅地だが、隣がコンビニなので、何度か家を抜け出し、家族の人数分のアイスを買ったことが数回あり、母親が在宅の時ではない時ばかりのため、「私がいなくて何をかわからない。」と思っているとのこと。</p>

\* 小学三年生 9歳1ヶ月、平成29年3月時点の状況を、初回のアセスメントとします。

<p>事例について</p>	<p>出生前からダウン症の疑いがあることは指摘され、総合病院で出産。以後、病院へは1歳半くらいまで、受診と歩行を目指した指導を受け月に2回ペースで通う。児童発達支援センターMM園を利用始めてからは、就学までMM園の助言が中心であった。年中の時に公立の保育園に入園。卒園後は、地元の小学校の特別支援学級に就学。当事業所は、一年生の4月から利用。この三月で3年経過した。</p>
<p>支援体制 について</p>	<p>当事業所の送迎あり。近隣の方のみの利用としている。事業所の利用者は、日々8～10名。契約者は34名。日々の直接支援スタッフは、3～4人。(常勤は必ず2～3名以上。後はパート職員)木曜・日曜日は休み。</p>
<p>事例における 当事業所を利用 するまでの状況</p>	<p>MM園と当事業所は日頃から、研修も含めた連携を取っており、特にMM園の園長と作業療法士のアドバイスは定期的に求めてきている。そのこともあり、就学を機に、MM園が当事業所を紹介。(相談支援専門員は、本児が二年生の時からの担当だが、MM園の時の本児の様子は知っている方でもあった。)当事業所としては、MM園在園の頃の本児の様子は、行事も含め度々MM園を訪れており、本児が目立っていたのでよく知っているケースであった。保護者の方としても、すんなりと当事業所を利用することを決められた。但し当事業所としては、療育支援の目的を果たすために、一人でも多くの子どもに利用してもらいたく、通常は週二回までの利用とし、就労している母親に限り週三日までの利用としている。そのため、他の放課後等デイの利用も必要となり、当時は当方の紹介でいくつかの事業所を見学してもらい、「どあどあ」へ水・木・土曜日に通うことになった。「どあどあ」は、自由遊びを中心に放課後と週末の障害児の居場所として機能している事業所)</p>
<p>平成28年度 12月における 母親からの要望等</p>	<p>年に二回、保護者の方からのご要望等を確認しているが、12月(本児が3年生の二学期末)に行った面談では次のような話があった。(面談は家庭訪問により実施している。)</p> <p>*「これからこの子の兄と姉は大切な時期に入ってくると思いますが、この子が元気があり余りすぎて、あちこちでご迷惑をおかけしておりますので、上の二人には何かと負担をかけていることでしょうか。二人の勉強の邪魔は毎日しておりますし、できればもう少し遅く帰宅してくれたら、上の二人にとっては助かることになるのではないかと思います。」</p> <p>「時々他のお子様を叩いたり、ひっかくこともあるようです。4年生になりますので、もうそろそろ落ち着いてくれなくては、さらに力がつき、ひどいけがをさせてしまっはと思うだけで、胸がざわついてしまいます。」</p> <p>「こちらでは、とても静かに大人しく過ごしているようです。毎度のようにお尋ねしてすみませんが、やはり叱りすぎたり、私が仕事をしていることでの配慮不足から、わがままに育ったのではないかと思います。」</p>

# 事例の発達の状態

平成29年3月時点の状況

デイサービスセンター・アートによる評価

項目	状態	項目	状態
日常生活の技能	おやつの際は、スプーン・フォークを使用。咀嚼は弱く、ほとんど噛まずに飲み込むことがほとんど。偏食はないと思うが、やはり噛みごたえのある物は残しがち。水分はあまりとりたがらないので、定時に勧めていくようにしている。排泄については、ズボンをずらしているものの、前に腰を突き出すことが不十分で、よそ見も多いため、濡らしてしまうことがある。着脱は、自分ではやろうとするものの、左右裏表は今でもお構いなし。		
健康体調	休むことなく事業所を利用している。眼鏡はかけていてもかけなくても本人としては気にならない感じではある。時々投げってしまうことがあるとのことだが、当事業所ではそういった姿は見られない。ゆったりと過ごしているが、利用している時間帯に入眠することはなく、体力はついている。	感覚	特別な偏りはなく、初めてのことは不安を示し、必ず次第に慣れてくるといった状況。豆類を使って、手につかンでは、声を出しながらままと用の食器に落としていくことを繰り返す姿がよく見られている。
運動機能	置いてあるボールを思い切り蹴り飛ばす。棒にぶら下がることは10秒くらい可。階段はわりとスムーズに上り下りできている。長縄跳びは中に入って2、3回一緒に跳べたことはある。プールでは10メートルくらい犬かきのような泳ぎ方で、泳げる。	道具の操作	ハサミで簡単な形は切り取れる。人の顔は目、鼻、口、耳、髪の毛まで表現し、時折手足も描けている。声を出しながら、よく集中し、カラフルな色使いで力強く色塗りしていく。車や、家、周りにある小物など、なんでもそれらしく描くことができる。
認知	記憶課題などの～はどれに対し、「三つ」覚えていることもたまにある。形の構成は二分割でも混乱することあり。絵パズルは、キャラクター絵なら20ピースくらいは最後までやり遂げる。積み木構成は、3、4個の内容までは何とか対応可。	移動	母親と一緒に歩き、できるだけ手をつながないと、今でも何をしでかすかわからないと言っているが、冬休みの行事の時に買い物に行った時は、スタッフの前を歩かせたものの、交差点では信号で止まり、左右を見て渡っていた。
理解の仕方	日常的な流れは、おおよそ言葉で理解できている。文章での声かけは、その中の単語を拾い、後は勘で行動しているように思う。作業の手順等を、絵で示すことがあるが、ほとんど参考にしようとならない。	表現の仕方	誰がどこでどうしたのかを述べるができる。発音はダウン症独特の言い方で、S音は不明瞭。幼児語はあまり聞かれなくなった。しりとり遊びが少しできるようになっている。曜日や日にちはよく間違えて言っている。
対人関係	誰にでも話しかけるところはある。関心を示してくれる人だとわかると、すぐに抱きついたり、握手を求めたりする。校長先生の頭をよくなげるとのことだが、自分より偉い人と思うとそうしてしまうところがある。	集団参加	授業中チャンスがうかがっては、「しんくんがやりま～す」と言って、やりたがる。できないとわかると、「こうた～い！」と言っている。イベントごとが大好きで、皆を集めたりなど仕切ろうとする。
興味関心	好奇心旺盛で、よくテンションをあげて大はしゃぎすることのだが、当事業所では、緊張しやすく、不安になり易いところはあると考えており、マッサージでよく筋肉をほぐしている。リラックスできる時間は増え、のんびりと絵本や雑誌を眺める時間が増えている。	好きなタイプ・嫌いなタイプ	笑顔を示してくれればすぐに本児にとっては好きな人になっている。疲れている人、ボンヤリしている人にも優しく接している。口うるさく注意ばかりする人でもおちやらけている。融通が利かず、こうしないとダメ！といった関わり方をする人は苦手で、近くにいるとそっと逃げていく。
その他、特記事項	叱られて反省することはあるが、すぐに立ち直る。相手の気持ちをそらすことがとても上手。誘われたら何にでも挑戦しようとするが、注意はそれややすく、言われたことをよく聞かず、周りを見てまねようとするをせずに、自分の思いで取り組むので、びっくりさせられることもある。ただ、リラックスして落ち着いた状況では、かなり指示も入り、見本をよく見てまねようとする面も事業所の中では見られている。		

# 発達の評価

デイサービスセンター・アートによる評価

平成29年3月時点の状況

使用検査: KIDS 乳幼児発達スケール(TYPE T)							記入日: 平成29年3月16日		
記入日	H29年 3月16日		生年月日	H20年 2月 14日			生活年齢	9歳1ヶ月	
領域	運動	操作	理解言語	表出言語	概念	対子ども 社会性	対成人 社会性	しつけ	食事
得点	30	30	30	22	7	16	28	18	22
発達年齢	3歳10ヶ月	4歳6ヶ月	4歳5ヶ月	2歳8ヶ月	2歳2ヶ月	4歳2ヶ月	3歳7ヶ月	4歳0ヶ月	3歳0ヶ月
得点合計	203		総合発達年齢	3歳9ヶ月			総合発達指数	41	

「KIDS」について  
スクリーニングタイプで、「母親記入式」であるが、当事業所で記入。事業所での姿を見ながら各項目を評価したが、チェックできなかったことについては、母親及び、他事業所、学校の担任の先生、相談支援専門員に尋ねている。

## その他: 補足

特別支援学級(知的障害)に在籍。担任1名と教育支援員という方が二人おり、1年生二人・2年生・本児・6年生二人の計6人の児童が在籍。交流の機会は、給食、朝・帰りの集いには参加。一人で行って一人で帰ってきている。特別支援学級の教室から授業中に出ていくこともあるが、交流学級の授業に参加していることもあるとのこと。姉のクラスにも「失礼します」と言って、授業中であっても入ってくることもある。特別支援学級では、下級生のお世話(度々おせっかい!)をよくしており、先生からは、「丸井君がやるべきことをやってから、手伝ってください。」と毎日注意される様子。担任の先生は、特別支援学級の担任を二十年以上受け持っているベテランの先生。特別支援学級以外の同僚の先生を巻き込んで、学級の子どもたちの課題や役割を適宜伝えており、学校全体で特別支援学級を支えていくことが大切と考えている。以前は勝手に教室から飛び出すこともあった丸井君は、3年生の時より支援学級から出ていく時は、必ず行き先を伝えるようにはなっており、寄り道はあっても自分が宣言したところに行くようになっている。

ご家族は、両親共に仕事は忙しく、少々お疲れ気味の様子だが、新之助くん中心に考えており、休日には新之助くんの相手を誰かがしている。生活リズムが崩れないような程よい近場のお出かけを考え、将来につながるような体験はできるだけさせていきたいとも考えている様子。